

めしを食わないよめさん

むかし、ある山の中に、若いきこりが住んでいました。きこりは、毎日山で仕事をしていましたが、弁当を食べるとき、いつも、

「ああ、めしを食わないよめさんがほしいなあ。なんとかして、そんなよめが来てくれるないかなあ」と、ひとりごとをいつていました。

ある日のこと、きこりがまた、

「ああ、めしを食わないよめさんがほしいなあ」と、ぶつぶつといつていると、すぐそばの木が、

「それなら、わたしがよめになりましょうか」といいました。つるりとした美しい木でした。

「なんだって。おまえがよめになんかなれるのか」と、きこりがきくと、木は、

「はい。なれますよ」といつて、くると、いいむすめになりました。きこりは、（いい着物着て、めし食わないで、まあいいよめだ）と思つて、その木をよめさんにして、家につれてかえりました。

ある日、きこりが山へ出かけていたときのことです。ひとりの村人が、きこりの家にたち寄りました。見ると、よめさんが、大釜おおかまいっぱいに、めしをたいていました。まだ昼めしだきでもないのに、おかしいなあと思つて、

「そのめし、どうするんだ」とききました。よめさんは、

「ああ、これですか。山へ持つていくんですよ」と答えました。村人は、

（あんなたくさんめし、山に持つて、だれに食わせるんだ）とふしぎに思つて、そつとかくれてのぞいていました。

よめさんは、大釜いっぱいにたいためしを、ぴつ、ぴつと、にぎりめしにして、台の上いっぱいにならべました。そして、頭の髪かみをざくと分けました。すると、大きな口があらわれました。よめさんは、にぎりめしをみんな、頭の口の中へ、しつとんしつとん入れて、ぺろと食べてしましました。

さあ、村人はびっくりしたのなんの。こしをぬかして、はつてにげていきました。ちょうどそこへ、きこりが山から帰つてくるのに出会いました。村人は、

「おまえ、めしを食わないよめがほしいっていってたけど、めしを食わないど、ころじや
ない、一日五升^{しょう}めし食うよめだ。あれはただの人間じやない。鬼か蛇にちがいないか
ら、すぐ追い出したほうがいいぞ」といいました。

そこで、きこりはつぎの日、山へ行つたふりをして、^{はり}梁にあがつて見ていました。

よめさんは、大釜いっぱいに、ぴちっと、めしをたいて、ぴつ、ぴつとにぎりめ
にして、台の上いっぱいにならべました。それから、頭の髪をざくつと分けて、にぎ
りめしをみんな、頭の口の中へ、しつとんしつとん入れて、べろと食べてしまいまし
た。きこりは、びっくりして、

（これはただもんじやない。鬼か蛇にちがいない）と思いました。そして、山から帰つ
たふりをして、よめさんにいました。

「そろそろ五月の節句^{せつく}だ。おまえ、里帰りでもしてこないか」

よめさんは、

「そんなら、あんたもいっしょに行つてくれるかい」といました。きこりは、しかた
なく、

「そうだな」といつて、よめさんといっしょに行くことにしました。

ふたりは出かけました。よめさんは、

「あの山のむこう。その山のもうちょっとむこう。この山のむこう」といながら、ど
こまでもどこまでも歩いていきます。どこまで行つても、家一軒見あたりません。きこ
りは、気味悪くなつてきて、

「おれ、便所^{べんじょ}に行きたくなつたから、先に行つてくれ」といつて、よめさんを先に行
かせ、自分は、わらわらと走つてにげだしました。

よめさんは気がついて、

「このやろう。どこまでにげたつて、にがさないぞ」といつて、鬼になつて、ブーンブ
ーンと追いかけてきました。きこりが走つても走つても、鬼は追いかけてきます。
(もうだめだ)と思つたとき、よもぎとしようぶがいっぱい生えているところに来まし
た。きこりは、そことびこんで、ひたうとうつぶせになつて、かくれました。

鬼はブーンブーンとんできて、きこりを見つけると、

「こんなところにいたな。ひと思いに食つてしまいたいが、この中に入つたら、おれの
命がないわい」といつて、きこりのまわりをブーンブーン走りまわりました。

鬼は、

「よもぎとしようぶじや、からだがとける」といながら、いつまでも走っていましたが、どうすることもできないで、どこかへ消えてしまいました。

それで、五月の節句には、よもぎを屋根にさしたり、しようぶを軒先にさしたりして、のきわらわ魔よけにするのだそうです。

*
とんびすかんこ ねつけど

* きこり 山林で木を切つて生活する人

* 五升めし たくさんめし。米一升は、やく一・五キログラム

* 蛇 へび。ここでは、妖怪化した悪い神さま

* 梁 屋根の下にある、柱をささえる材木

* 五月の節句 五月五日、たんごの節句のこと。よもぎやしようぶをのきにつるしたり、しようぶ湯に入つて、病気にならないよういのる

* とんびすかんこ ねつけど 「おはなしはおしまい」という意味の決まりもんく。地方によつてことなる

原話：『雀の仇討』野村純一・野村敬子／東北出版企画

再話：村上郁